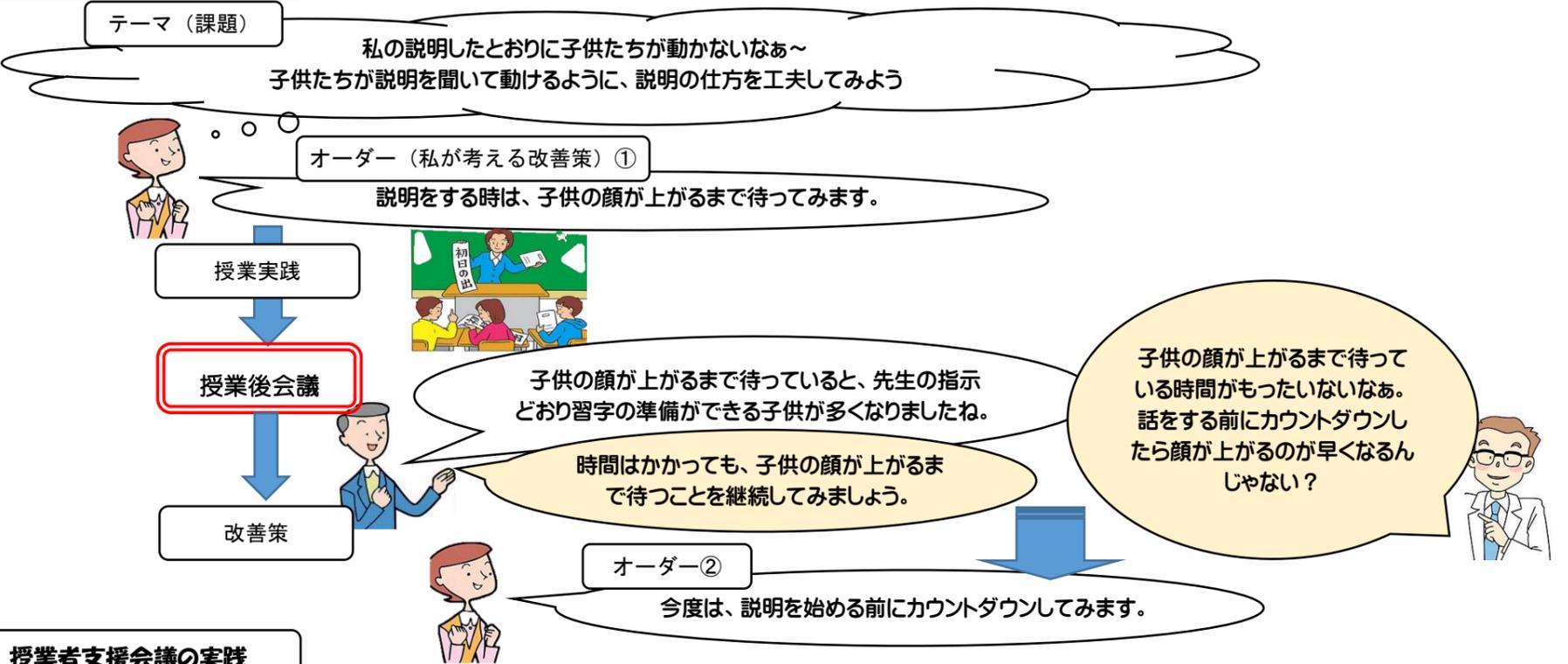


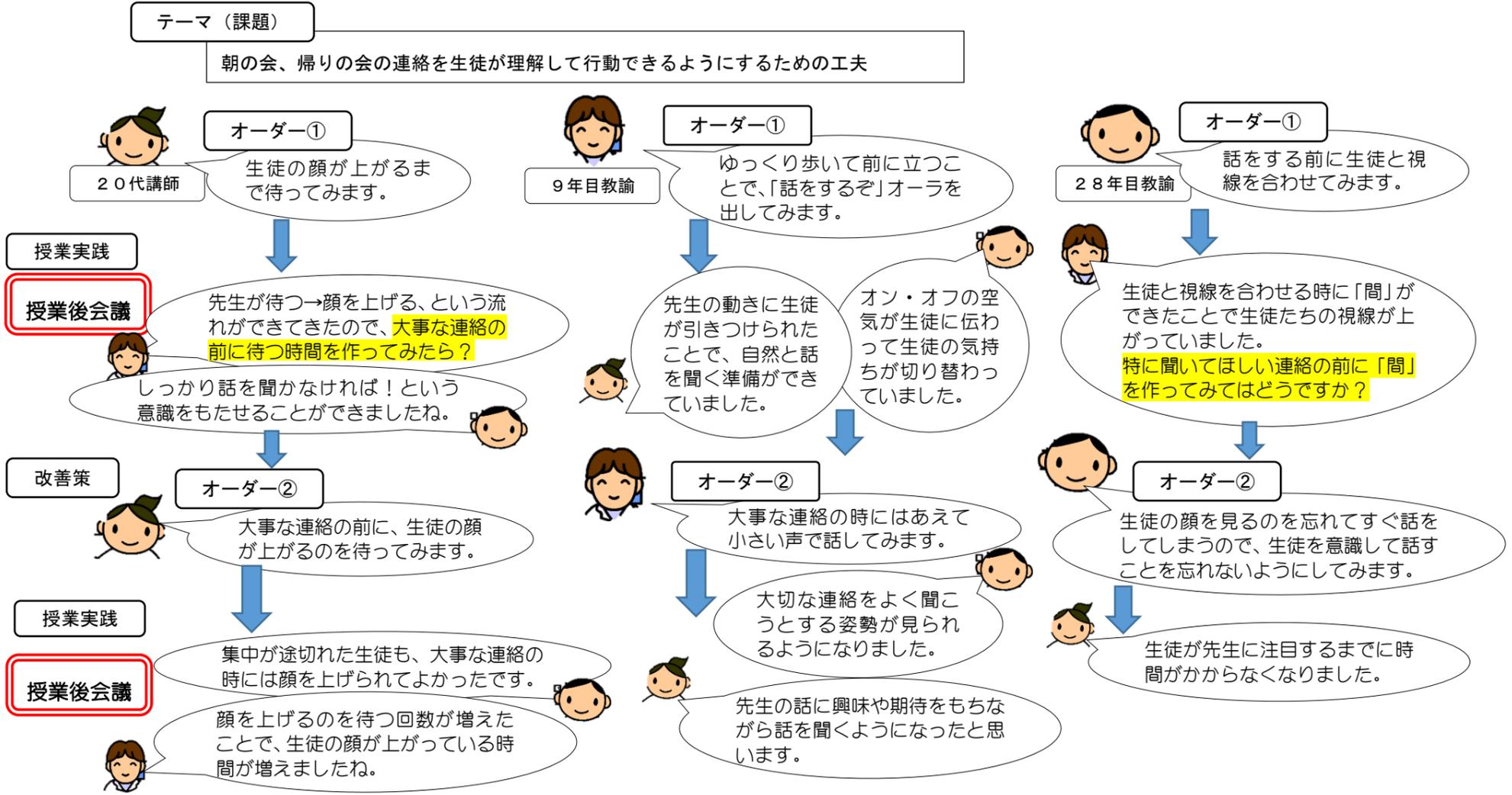
授業者支援会議で生徒への説明スキルを高める取り組み

南魚沼市立総合支援学校 中学部 吉田 康子

授業者支援会議の仕組み



授業者支援会議の実践



成果と課題

- 〔成果〕
- ・オーダーを定期的に他の教師に伝えることで、教師自身が自分の授業に対する課題（改善点）を探したり、課題を意識したりするよい機会になった。
 - ・今回は、学級の朝の会・帰りの会での取り組みであったが、生徒の前に立って話を始める他の機会でも、生徒が集中して話を聞き、内容を理解できるような、話し方、説明の工夫を工夫したり気をつけたりするようになった。
 - ・教師が前に立つと、生徒が自然と教師に視線を向けて話を聞くようになった。説明した内容について教師が質問をすると、ほとんどの生徒が正解するなど、授業者支援会議の効果が生徒に反映している。
 - ・支援者会議を付箋のやりとりで行ったことで、「会議」として、時間を設けることなく研修ができた。

- 〔課題〕
- ・今回は、3人の担任が共通のテーマで取り組んだため、緊急性や必然性、困り感が高くはなく、オーダーを出すことに苦慮していた。（必然性がなかったため、意欲的に取り組めなかった）
 - ・支援者会議の目的は、アイデアを出し合うことであるが、オーダーに対する評価の場になっしまい、次のオーダーにつなげることができなかった。

授業者支援者会議の有効活用 ～成果と課題を踏まえて～

- ・自分の授業に対して改善の意欲のある教員が自分自身の課題としてTTを組んでいる教師に対してオーダーを出す。
 - ・初任者など、経験の少ない教師が基本的な技術（話し方、板書、教材やプリントなど）についてオーダーを出し、初任者同士又は初任者指導員など経験豊富な教師が評価をしたり、アイデアを出したりする。
 - ・教師自信が、授業が改善されたと感じた時点でそのオーダーは終了する。又はテーマを変える。
- ★教師自身の困り感、授業を改善したいという意欲からのオーダーだとより成果が上がる。